

高き志【こころざし】

新たな挑戦(その2)

私が校長として最初に赴任した学校は、高森町立高森東小学校でした。しかし、現在この名称は残っていません。私の転勤と時期を同じくして、県下初めての「義務教育学校」(※)…「高森東学園義務教育学校」として再スタートしているのです。今回は、訳あって、その義務教育学校がスタートする前年度に、私が取り組んだ内容を掲載した学校だよりの一部を紹介したいと思います。

※義務教育学校とは、小学校課程から中学校課程まで義務教育を一貫して行う学校。学校教育法の改正により2016年に新設された学校教育制度。

「たくさんの先生方から いろいろなことを学ぼう！」

2016年4月13日発行

この言葉は、先日の始業式で私が子どもたちに話したことのひとつです。

今年度から、5・6年生が複式学級となりましたが、複式の授業を解消するために中学校の先生方に授業に入っていただくことはお伝えしてきました。本年度、そのシステムの導入と同時に、その他の学年でも、担任以外の先生から学ぶ機会を取り入れています。中学年は、担任の先生方の長所を生かした授業という視点。低学年は、合同で学習する場面を増やした複数体制の指導という視点から導き出したものです。今回は、これらの状況を少し詳しく説明したいと思います。

【高学年(5・6年)】 ※中国＝中学校国語教師 その他も同様

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	英語	総合	道・学
5年	担任	中社	中数	担任	中音	中技家	中技家	担任	中英	担任	担任
6年	※中国	担任	担任	中理					担任		

【中学年(3・4年)】

- ・3年生の理科を4年担任が担当。
- ・4年生の英語と図工を3年担任が担当。(3年担任は中学校英語免許所持)
- ・音楽は3・4年ともに中学校の音楽教師が担当。
- ・英語の授業は、町英語指導補助員が補助。ALTも一部の授業で補助。
- ・朝の会、帰りの会、給食指導の方法を共通化し、定期的に3・4年担任が交代して指導。

【中略】

今年度は、「義務教育学校」への移行を視野に入れた小中一貫教育を推進し、9年間を見通した教育課程を工夫する中で、このような多彩な指導体制・システムを取り入れていきます。できるだけ教師の専門性を生かしながら、子どもたちにとっては「たくさんの先生方から、いろいろなことを学ぶ」ことができるように工夫しました。

これも、高森東学園だからこそできる、一歩踏み込んだ取組ではないかと思っています。

今回この記事を紹介した訳は、本年度、本校でもこの取組を参考にした指導体制を組んでいるからです。そしてそれは、以前から学校便りで触れることをお知らせしてきた「新たな挑戦」の一つなのです。しかし、上の取組はそのままでは使えませんので、本校に合った形へ変更し、できるところから取り組んでいるところです。

まずは、高学年部(5・6年)で交代授業に挑戦しています。6年担任の湯本先生が5・6年の合同体育を指導し、小畑先生はT・Tとして入っています。また、5年担任の小畑先生が6年生の英語も担当し、湯本先生はT・Tとして入っています。その時の5年生は、理科で山田先生の授業を受けています。さらに様々な場面で、5・6年共通した指導を行い、理科の山田先生も含め、指導者が指導内容や方法を共有し、3人で5・6年生全員を育てるという意識で取り組んでくれています。

このような取組を少しずつ広げ、全教職員が力を結集して、6年間を見通した教育活動を行っていくとすることが「新たな挑戦」なのです。そのためには、今までの「学級担任」という概念を少し変えてみることも必要だと考えています。勢いが出てきた高木小の勢いがさらに加速するよう、「新たな挑戦」へ挑み続けていけたらと思います。